

白川静博士
福井県福井市出身

字書三部作『字統』『字訓』『字通』の著者

白川静漢字教育賞

効果的な漢字の指導法のほか、教材や書、
文芸作品の制作や発表などの実践を募集します。

1.対象

新しい指導法や特色ある教材によって、継続的に漢字教育を
実践し、成果および努力が認められる個人および団体
(対象となる活動内容)

- ・漢字に関する能力向上を目的として、学校や社会教育で行
われる漢字教育実践
- ・漢字文化の普及に向けた教材(映像、デザイン等)や作品
(書作品、演劇、文芸等)の制作発表等

2.応募方法

①(様式1)申請書

②(様式2)実践報告書

以上2点の提出(郵送・FAX・メール可)

※福井県のホームページからダウンロード可
(「白川静漢字教育賞」で検索)

※添付いただきました資料はお返しいたしません。

ただし、返却を希望される方には、表彰式後に返却いたします。

※応募後の審査状況や選考結果に関するお問い合わせには応じられ
ません。

3.選考委員

柵橋 尚子(奈良教育大学教育学部教授)

加藤 徹(明治大学法学部教授)

後藤 文男(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所研究員)

遠藤富美夫(福井新聞社論説委員長)

東村 健治(福井県教育委員会教育長)

4.表彰

最優秀賞 副賞5万円

優秀賞 副賞1万円

5.お問い合わせ・応募先

〒910-8580 福井市大手3丁目17-1

福井県教育庁生涯学習・文化財課 白川静漢字教育賞係

Tel: 0776-20-0559 Fax: 0776-20-0672

E-mail: syoubun@pref.fukui.lg.jp

応募締切: 令和元年9月13日(金)(消印有効)

表彰式および入賞者による実践発表: 令和元年11月頃

白川静漢字教育賞実践報告書

1 目的・ねらい

2 実践の内容

- ※実践日を明記してください。
- ※1～3つの実践例をご報告ください。

3 実践の成果

- ※できるだけ具体的にご記入ください。

第6回（平成30年度）白川静漢字教育賞

最優秀賞 静岡県 文字處しゐする 主宰 古澤 英一 氏

テーマ「文字の奥深さを広く伝える漢字教育実践」



浜松書道研究会発行の月刊誌『書研』にて、白川文字学に基づく漢字の解説文「漢字の稽古」を連載し、未就学児童から年配の方々まで広く、白川文字学をわかりやすく紹介している。また、漢字教育士として文化センター、カルチャーセンター、協働センターでの講座の他、小中学校の特別授業、社会人の異業種交流会等で、浜松市内だけでなく市外でも幅広い年齢層を対象とした講演活動を行っている。

〈評価のポイント〉

- ・白川文字学をよく勉強した上で、書道雑誌への連載や漢字講座の開催、講演活動など幅広い活動を行っている。あらゆる年代の人たちを対象とする社会教育分野での活動として秀逸である。
- ・地元の浜松市や市外の生涯学習施設・小中学校で講演会を行うなど、精力的に活動し、漢字の魅力や言葉の大切さを説いている。

優秀賞 福井県 木彫家、篆刻家 岸下 順一 氏

テーマ「平面の文字を立体に～伝統工芸作品制作～」



漢字の古代文字に興味・関心をもってもらうことを目的として、自分の名前の古代文字の印作り（消しゴム・石印材）、古代文字をテーマにした木のおもちゃ作りを中心に活動している。これらのワークショップでは、準備された作品を参考にして、受講者自身が作り、それを使って実際に遊び、使用することで、一層興味をもたせるようにしている。

〈評価のポイント〉

- ・木で作ってあり手で触ることができる。その触感の生々しさが、白川静先生の漢字、文字学、東洋文化の研究に通じるし、手の記憶で漢字を呼び覚ますような力を感じる。
- ・古代文字が遊び道具に早変わりする発想の面白さが素晴らしい。漢字の普及に大変貢献している。

優秀賞 東京都 漢字教育士 植木 ゆりこ 氏

テーマ「紹介で広がるワクワク楽しい漢字教室」



平成24年から年間25回程度、小学校低学年とその保護者を対象とした漢字教室を東京都内各所で開講している。漢字を学び始めたばかりの小学校低学年の児童を対象とした指導法、教材、漢字ゲームを開発し、漢字を意味ごとにパーツとして分解する習慣をつけ、新しく出会う漢字にワクワクする子どもたちを育てている。

〈評価のポイント〉

- ・小学校低学年の子どもたちに対して、興味深い教材やゲームを数多く考案し、保護者も巻き込んで成果を上げている。他の学校教育でも活用できそうな内容である点もよい。
- ・漢字への興味をもたせるアイデアや工夫に富んだ指導方法が評価できる。入門期の子どもたちにとって漢字を身近なものにさせる優れた実践である。